

## 導入ゼミ懇談会記録（案）

日時：2009年7月8日（水）

場所：経済棟 10F 会議室

出席者：（敬称略、順不同）杉村、中村、朝日、フィアラ、田島、宇城、津村、亀田、菊沢、北村、清水、加藤、徳野、塚原、小林、山川、木村、黒田

### 1. 前期の導入ゼミのふり返りと各自の導入ゼミの取り組みの紹介

- （1）概して、資料の収集方法、レポート作成法、プレゼンテーションの指導など、導入ゼミで必要項目としてあげられていたものが多くの導入ゼミで行われている。
- （2）ただし、テーマと授業方法については、それぞれに異なっていた。テーマについては、多くのゼミにおいて各自の専門分野に関わりのあるテーマで進められていた。中には専門分野に関わるが現代的なトピックを取り上げているゼミや昨今の学生の資質の問題（メディアを見聞きすることの不足）に注目してテーマ設定しているゼミもあった。授業方法については、以下のような工夫があった。

#### ①テーマ設定のさせ方

- ・ 教員側から文献を提示し、その中で学習を進めさせていくやり方、2～3のテーマを教員が決めてその中からやりたいテーマを学生に選ばせるやり方、テーマの大枠は教員が決めるが、細部は学生が決めていくやり方（もしくは、ディスカッションを通して面白くなりそうなテーマを学生と一緒に考えていくというやり方）の3パターン。

#### ②学生の学習の進め方

- ・ グループで進めるやり方（ただし、最後のレポートは個人で書かせる）と、個人で進めていくやり方。

#### ③発表の方法

- ・ パワーポイントを使わせるやり方と、原稿をもとに口頭発表させるやり方。プレゼンの時間は1人の学生につき10分程度設けられている。

#### ④テーマへの関与のさせ方

- ・ テーマに関係する文献や資料を深く読み込んでいくやり方と、テーマを広く調べてまとめさせていくやり方と、その両者がミックスされたやり方

#### ⑤学生の主体性と活動性

- ・フィールドワーク、グループワーク（役割分担をきちんと決める）、学生同士のディスカッションを導入した例や、プレゼンをビデオで録画し学生に相互評価させるといった取り組みが紹介された。また、学生の興味のあることがテーマとなるように、やさしい身近な資料（雑誌記事など）からテーマ設定させる例もあった。

#### ⑥その他の例

- ・授業時間や進行速度の工夫：課題提示や授業内容が過密にならないように配慮したという意見があった
- ・プレゼンテーションの時間的な工夫：プレゼン時に時間がない場合は、ポスターセッションで発表させるというやり方もある
- ・課題の提示方法：課題を1つずつ段階的に与えていく（それらをまとめると最終的にレポートの形になる）というやり方も紹介された。
- ・授業進行のアシスト：B B L Sの利用が提出資料の収集・配付などの面で役立った。

## 2. 今後の導入ゼミの方向性

### (1) 導入ゼミの性格と枠組みについて

プレゼンなど技術的なところを中心に教育するという方針でなく、1年生の内に知っておくべき事項や学んでおくべき内容を身につけさせるという方針の方が良いのではないか。関連して、大学生にもかかわらず、小中学生で知っているべき事柄（例えば、社会・理科の基礎知識）を知っていない、新書などをまともに読めない、などの問題があり、これらへの対処も必要ではないか。

### (2) 導入ゼミと教養ゼミの関係性について

教養ゼミを必修化するかどうか、および、導入ゼミと教養ゼミとの連携をどうするか（導入ゼミの内容を読み書きとし、教養ゼミでは話す聞くとする）については、今後の継続課題とする。

### (3) 今後の懇談会について

- ・他部局の導入ゼミ担当教員も含め、意見交換、授業紹介などを行い、継続的に導入ゼミの方向性を考えていく。